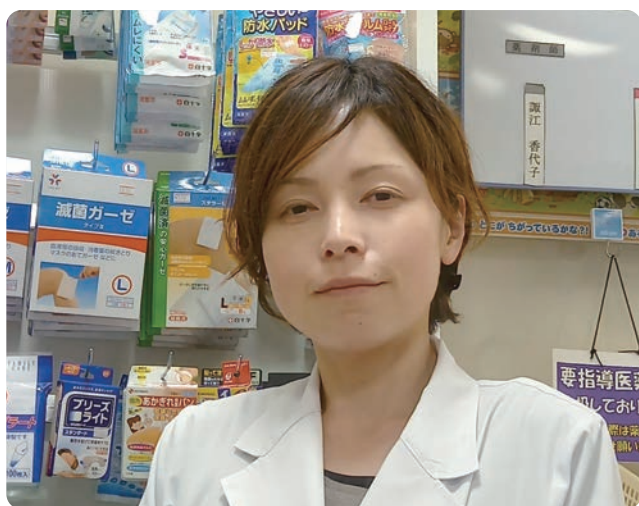


# 奥会津 高齢化率61.9% 厳しい医療提供体制だからこそ医薬品供給の中核として 医師、看護師らと連携して「地域」を支える

自然豊かな環境での子育て求め、  
へき地に戻り「町おこし」も推進



コスモ調剤薬局金山店（福島県大沼郡）  
管理薬剤師  
諏江 香代子（すえ かよこ）氏

コスモ調剤薬局金山町店がある福島県大沼郡金山町は昭和村、三島町、柳津町の3町村を含め奥会津と呼ばれ、高齢化率は61.9%（2022年）と県内でも2番目に高く、地域の高齢化、過疎化が進んでいます。同薬局は、奥会津の在宅医療をカバーする奥会津在宅医療センターの医療チームとの連携関係のなかで、町民の医薬品、医療材料等の供給拠点として大きな役割を果たしています。この町内唯一の薬局で管理薬剤師を務める諏江香代子氏に、へき地医療を支える薬局・薬剤師業務と「町おこし」活動の一端を伺いました。

## Profile

2004年に昭和薬科大学卒業後、静岡が本社のドラッグストアに就職、東京の店舗で約4年、静岡の店舗で約2年勤務し、2010年長崎県原市の調剤薬局に勤務。2014年に会津若松市に移住し、会喜調剤グループに就職。2017年に中学時代まで過ごした金山町へUターンし、コスモ調剤薬局金山店の管理薬剤師を務めている。地域唯一の現役薬剤師として小学校、中学・高等学校の学校薬剤師を担う傍ら、地域の人々とのつながりのなかで、空き家を活用したコミュニティスペース「このかぜ」を運営するなど、「町おこし」にも積極的に参加している。

## へき地で唯一の薬局・薬剤師として、 OTC販売や外来診療、在宅まで対応

**金山町の状況、医療機関との関わりを含め薬局をめぐる状況についてお聞かせください。**

**諏江** 金山町は人口1849人、1013世帯の山間の農村地域で、高齢化率は61.9%です。医療機関は直ぐ傍の金山町国保診療所（内科、外科、歯科）だけで、処方箋の80%を占めます。また2020年に福島県と福島県立医科大学のプロジェクトとして県立宮下病院の1部

門として奥会津在宅医療センターが設置され、県立医大から派遣された医師2人、看護師5人が奥会津4町村の在宅医療を担っています。金山町の患者さんについては、当薬局を利用してくださっています。

処方箋は在宅も含め月に550~600枚です。このうち在宅患者さんは26人ほどで、内訳は地域に2軒あるグループホームの患者さんと個人宅の患者さん7人ほどです。国保診療所では、少し離れた横田地区に週2回、

沼沢地区に月2回出張診療を行っています。その時にどうしても当日薬が欲しいという患者さんは、その日のうちに私が対応します。

また、近隣の柳津町に薬局は無く、昭和村には昭和村国民健康保険診療所の前に1軒、三島町の宮下病院のそばに地元薬局が1軒あります。緊急時の小分けなどもあり、時々連絡を取り合うほか、宮下病院からの処方箋もありますので、病院薬剤師さんや門前の薬局とは処方や調剤に関して情報交換をすることもあります。

### へき地における薬局で苦労していることや課題、特徴などお聞かせください。

**諏江** それは何と言っても薬剤師不足というか、事務さんも含めたスタッフ不足です。これは薬局に限ったことではなく地域の課題でもあります。また、地域的に一番大変なのは雪ですね。例えば「青い屋根の家」と言われて訪ねても、雪で分からない。ご高齢で一人暮らしだと、ほとんど雪かきをしてないので道路から玄関までの通路確保のために自分でラッセルして行ったり、時には雪かきを手伝うこともあります。



近隣にお店が少ないので、実はOTC医薬品の売り上げが社内でも上位です。金山町から30km程度離れたところにドラッグストアがあり、若い人は車で買い物が可能です。お年寄りにはそうもいきません。ですので、町の商店としての役割も果たしていかなければなりません。例えば電話でカットバンが欲しいと連絡を受けてお届けすることもあります。また、買い物先でも、「薬局に〇〇置いてある？」と尋ねられることもあります。役場や郵便局などが近いので、「〇〇は取り寄せられますか？」などといった声もかかります。地域の人とつながる機会ですので、町のニーズを考えながら商品選定をし、ついでに薬局の宣伝もしています。

## 医薬品供給の中核、薬物療法専門職として在宅チームと在宅患者を支える

**奥会津在宅医療センターの在宅チームを含め、関係者とのネットワークや薬局の取り組みをお聞かせください。**

**諏江** 奥会津医療センターは今年で3年目ですが、特定の地域ネットワークシステムはなく、患者さんごとに関わるコメディカルが、いわゆる多職種連携情報シ

ステムを使っています。薬局の場合は、患者さんの指導計画書や報告書等を書面で情報共有しています。

金山町内の患者さん宅は遠くても車で片道30分程度です。奥会津エリアにある柳津町のグループホームにも行きますが、そこも40分程度です。ただし雪が降る季節は、それ以上の時間がかかる場合もあります。気候の影響で訪問が遅れる場合は、直接電話等で情報共

有する場合もあります。また、新型コロナウイルス対応では、いわゆる0410対応で、国保診療所の処方箋により、薬をポストに入れる対応をしていました。多くの住民が感染したこともあり、オンラインでの対応ができたことは薬局スタッフの感染リスクも減り、へき地の医療を守る上で有効だったと思います。

### 在宅チームのドクターとは、具体的にどのような連携をされていますか。

**諏江** 多職種連携情報システムでの情報交換のほか、直接ドクターが薬局に来ることもあり、その際は処方内容の意図を教えてください。ドクターは2人とも薬に関して不明点があれば相談してくれます。訪問看護師さんを含め、オピオイドスイッチングの相談が多く、先日情報交換を経て、ある患者さんの坐薬を飲み薬に切り替えました。

また、薬剤師は基本的に私1人なので急に薬局を離れることは難しいのですが、入院した患者さんが在宅に戻るときに、2回ほど診療同行しました。また、在宅チームの拠点は薬局の隣町である三島町にあり、在宅報告書を直接持って行って、気になる患者さんの情

報交換をすることもあります。

在宅チームの看護師さんたちと連携する機会は多く、例えば患者さんが便秘で急に浣腸が必要になったときなどは、看護師さんが臨機応変に対応してくださり、薬の管理で助けられることは多いです。薬局は基本的に土曜午後と日祝日が休みですが、平日でも薬局から出られない時間が多く、時間外で対応することもあります。

### 国保診療所とはどのような連携をされていますか。

**諏江** 高齢者が多いので、服用薬の種類も多くなりがちで、ポリファーマシー対策は慎重に行っています。実際に必要な薬がほとんどですが、患者さんやご家族から、「薬が多いので、減らせる薬は無いですか？」など相談があれば提案はしています。トレーニングレポートを作成することもあります。診療所は目の前なので、直接電話でお伝えすることが多く、看護師さんがカルテに記載し、ドクターに伝えてくれています。在宅では報告書に、「〇〇を減らせるかどうか、ご検討ください」と、減薬の提案等をすることもあります。

## 空き家を改装して「コミュニティスペース」作り、移住者含め交流の場に

**町おこしに積極的に取り組んでいると伺っています。具体的な地域活動と今後の展望についてお聞かせください。**

**諏江** この地域の唯一人の現役薬剤師として小学校2つと中学校1つ、高校1つの学校薬剤師を担当してい

ます。他には薬物乱用防止教室の講師もしています。

一方、薬剤師の立場を離れた活動としては、戻ってくる人たちが地域で知り合えるよう、コミュニティスペースを作りました。娘は小学校に上がるタイミングで金山町に引っ越してきたので、初めは友達もおらず、同級生も1人だけで寂しい思いをさせたと思いま

すが、私を含め人と人が繋がる環境が必要だと考えたからです。たまたま近所に空き家があり、大家さんに相談したら許可が得られたので作りました。

ただ、私も平日は仕事で常駐できません。使いたい人に使ってもらっていますが、最近は移住者が増え、その方々の得意分野を生かしたイベントをしています。例えば「カレーの会」、ちまきづくりや笹団子づくりなど、季節に応じたイベントや、移住者交流会なども開いています。また、月に2回は、東日本大震災の際に発足した災害ボランティア団体「オールおくあいづ」の交流会を開いています。そのような交流の場では、親の介護の心配事や、若いお母さんの子育てに関する悩みなど、様々な悩み相談がもちかけられます。薬剤師としてアドバイスをすることもあります。誰もが孤独にならないよう、集まる皆が各々話し合っ楽しんで様子を見守りつつ、より良い環境を整える縁の下の立場でありたいです。

また、以前、地域おこし協力隊の方が、何か地域のPRをしたいということで、私が白無垢を着て舟に乗り、只見川の幻想的な景色を背景にしたイメージ写真を撮

影し、宣伝したこともありました。

今後も在宅医療はこのまま続けたいと思っていますが、学生さんや若い方にも薬局に気軽に来てもらえるようにアロマエッセンスを作る体験イベントなども考えています。地域の人たちが、少しでも金山町に暮らして良かったなと思えるよう、みんなで地域を盛り上げていけたらなと願っています。



諏江さんが白無垢姿で  
地元アピール